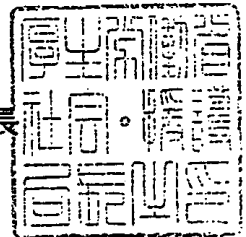


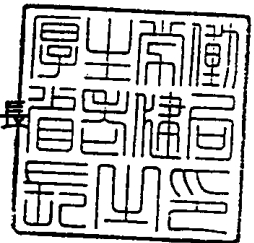
社援発第1277号
老発第275号
平成13年7月23日

都道府県知事
各 指定都市市長 殿
中核市市長

厚生労働省社会・援護局長



厚生労働省老健局長



社会福祉法第2条第3項に規定する生計困難者に対して無料又は低額な費用で介護保険法に規定する介護老人保健施設を利用させる事業について

標記の事業（以下「無料又は低額介護老人保健施設利用事業」という。）については、「社会福祉事業法第二条第三項に規定する生計困難者に対して無料又は低額な費用で老人保健法（昭和57年法律第80号）にいう老人保健施設を利用させる事業について」（昭和63年4月1日社庶第109号厚生省社会局長・児童家庭局長連名通知。以下「旧通知」という。）によりその基準が定められているところではありますが、今般、地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律（平成11年法律第87号）の施行及び介護保

険法（平成9年法律第123号）の施行等を踏まえ、標記事業の基準及びその運用等について、以下のとおり制定いたしましたので、貴職におかれましては、適正な無料又は低額介護老人保健施設利用事業の実施に御配慮いただくようお願いいたします。

なお、本通知は、第三の1を除いて地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の9第1項及び第3項の規定に基づく都道府県並びに指定都市及び中核市が法定受託事務を処理するに当たりよるべき基準として発出するものであり、本通知の施行に伴い、旧通知は廃止する旨を併せて申し添えます。

記

第一 無料又は低額介護老人保健施設利用事業の基準

無料又は低額介護老人保健施設利用事業を行う者は、次の項目を遵守すること。

- 1 生計困難者を対象とする費用の減免方法を定めて、これを明示すること。
- 2 利用料は、周辺の介護老人保健施設と比べて入所者等に対し、過重な負担とならない水準のものであること。
- 3 生活保護法による保護を受けている者及び無料又は介護保健施設サービスに要した費用（介護保険法第48条第1項に規定する施設介護サービス費の支給の対象となる費用及び介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号）第79条に規定する費用の合計額とする。）の10%以上の減免を受けた入所者の延数が入所者の総延数の10%以上であること。
- 4 通所介護事業又は通所リハビリテーション事業を実施すること。
- 5 家族相談室又は家族介護室を設け、家族や地域住民に対する相談指導を実施するための相談員を設置すること。

第二 留意事項

- 1 施設の経営主体は、無料又は低額介護老人保健施設利用事業を行うために必要な資産を有すること。
- 2 費用の減免は、おおむね次のような方法により行うこと。
(1) 施設は、生計困難者を対象とする費用の減免方法を関係機関と協議の上決定すること。

- (2) (1)の実効性を確保するためには、市町村社会福祉協議会、民生委員協議会、民生委員等の十分な協力が必要であると考えられるので、各関係機関に無料又は低額介護老人保健施設利用事業の内容について周知徹底を図り、その適正な運営を期するよう指導されたいこと。

第三 指導監督

- 1 無料又は低額介護老人保健施設利用事業を行う者について、少なくとも毎年1回その実施状況を調査し、その結果を別に定めるところにより報告するほか、その適正な運営を期するため、必要な指導を行われたいこと。
- 2 無料又は低額介護老人保健施設利用事業に係る社会福祉法人の設立又は定款変更認可は、将来にわたっての基準適合の見通し、立地条件等を総合的に判断して行うものであること。

- 社会福祉法第2条第3項に規定する生計困難者に対して無料又は低額な費用で介護保険法に規定する介護老人保健施設を利用させる事業について（平成13年7月23日社援発第1277号、老発第275号厚生労働省社会・援護局長、老健局長連名通知）【新旧対照表】

改正後	現 行
<p data-bbox="867 289 1159 402">社援発第1277号 老発第275号 平成13年7月23日</p> <p data-bbox="208 451 530 560">都道府県知事 各 指定都市市長 殿 中核市市長</p> <p data-bbox="675 646 1136 716">厚生労働省社会・援護局長 厚生労働省老健局長</p> <p data-bbox="185 808 1166 878"><u>社会福祉法第2条第3項に規定する生計困難者に対して無料又は低額な費用で介護保険法に規定する介護老人保健施設を利用させる事業について</u></p> <p data-bbox="185 964 1173 1391"><u>標記の事業（以下「無料又は低額介護老人保健施設利用事業」という。）については、「社会福祉事業法第二条第三項に規定する生計困難者に対して無料又は低額な費用で老人保健法（昭和57年法律第80号）にいう老人保健施設を利用させる事業について」（昭和63年4月1日社庶第109号厚生省社会局長、児童家庭局長連名通知。以下「旧通知」という。）によりその基準が定められているところであり、今般、地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律（平成11年法律第87号）の施行及び介護保険法（平成9年法律第123号）の施行等を踏まえ、標記事業の基準及びその運用等について、以下のとおり制定いたしましたので、貴職におかれましては、適正な無料又は低額介護老人保健施設利用事業の実施に御配慮いただくようお願いいたします。</u></p>	<p data-bbox="1901 289 2169 358">社庶第109号 昭和63年4月1日</p> <p data-bbox="1212 488 1471 516">各都道府県知事 殿</p> <p data-bbox="1878 646 2146 716">厚生省社会局長 厚生省児童家庭局長</p> <p data-bbox="1189 808 2176 915"><u>社会福祉事業法第二条第三項に規定する生計困難者に対して無料又は低額な費用で老人保健法（昭和57年法律第80号）にいう老人保健施設を利用させる事業について</u></p> <p data-bbox="1189 964 2176 1117"><u>標記の事業（以下「無料又は低額老人保健施設利用事業」という。）について、その基準は次のとおりであるので、貴職におかれては、基準の趣旨、内容の普及、徹底を図るとともに、その実施に遺憾のないよう配慮されたい。</u></p>

なお、本通知は、第三の1を除いて地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の9第1項及び第3項の規定に基づく都道府県並びに指定都市及び中核市が法定受託事務を処理するに当たりよるべき基準として発出するものであり、本通知の施行に伴い、旧通知は廃止する旨を併せて申し添えます。

記

第一 無料又は低額介護老人保健施設利用事業の基準

無料又は低額介護老人保健施設利用事業を行う者は、次の項目を遵守すること。

- 1 生計困難者を対象とする費用の減免方法を定めて、これを明示すること。
- 2 利用料は、周辺の介護老人保健施設と比べて入所者等に対し、過重な負担とならない水準のものであること。
- 3 生活保護法による保護を受けている者及び無料又は介護保健施設サービスに要した費用（介護保険法第48条第1項に規定する施設介護サービス費の支給の対象となる費用及び介護保険法施行規則（平成11年厚生省令第36号）第79条に規定する費用の合計額とする。）の10%以上の減免を受けた入所者の延数が入所者の総延数の10%以上であること。
- 4 通所介護事業又は通所リハビリテーション事業を実施すること。
- 5 家族相談室又は家族介護室を設け、家族や地域住民に対する相談指導を実施するための相談員を設置すること。

第二 留意事項

- 1 施設の経営主体は、無料又は低額介護老人保健施設利用事業を行うために必要な資産を有すること。
- 2 費用の減免は、おおむね次のような方法により行うこと。
 - (1) 施設は、生計困難者を対象とする費用の減免方法を関係機関と協議の上決定すること。
 - (2) (1)の実効性を確保するためには、市町村社会福祉協議会、民生委員協議会、民生委員等の十分な協力が必要であると考えられるの

第一 無料又は低額老人保健施設利用事業の基準

無料又は低額老人保健施設利用事業を行う者は、次の項目を遵守すること。

- 1 生計困難者を対象とする費用の減免方法を定めて、これを明示すること。
- 2 利用料は、周辺の老人保健施設と比べて入所者等に対し、過重な負担とならない水準のものであること。
- 3 生活保護法による保護を受けている者及び無料又は施設療養に要した費用（利用料を含む。）の10%以上の減免を受けた入所者の延数が入所者の総延数の10%以上であること。
- 4 デイ・サービス事業又は老人保健施設デイ・ケアを実施すること。
- 5 家族相談室又は家族介護室を設け、家族や地域住民に対する相談指導を実施するための相談員を設置すること。

第二 留意事項

- 1 施設の経営主体は、無料又は低額老人保健施設利用事業を行うために必要な資産を有すること。
- 2 費用の減免は、おおむね次のような方法により行うこと。
 - (1) 施設は、生計困難者を対象とする費用の減免方法を関係機関と協議のうえ決定すること。
 - (2) (1)の実効性を確保するためには、市町村社会福祉協議会、民生委員協議会、民生委員等の十分な協力が必要であると考えられるの

で、各関係機関に無料又は低額介護老人保健施設利用事業の内容について周知徹底を図り、その適正な運営を期するよう指導されたいこと。

第三 指導監督

- 1 無料又は低額介護老人保健施設利用事業を行う者について、少なくとも毎年1回その実施状況を調査し、その結果を別に定めるところにより報告するほか、その適正な運営を期するため、必要な指導を行われたいこと。
- 2 無料又は低額介護老人保健施設利用事業に係る社会福祉法人の設立又は定款変更認可は、将来にわたっての基準適合の見通し、立地条件等を総合的に判断して行うものであること。

で、各関係機関に無料又は低額老人保健施設利用事業の内容について周知徹底を図り、その適正な運営を期するよう指導されたいこと。

第三 指導監督

- 1 無料又は低額老人保健施設利用事業を行う者について、少なくとも毎年1回その実施状況を調査し、その結果を別に定めるところにより報告するほか、その適正な運営を期するため、必要な指導を行われたいこと。
- 2 無料又は低額老人保健施設利用事業に係る社会福祉法人の設立又は定款変更認可は、将来にわたっての基準適合の見通し、立地条件等を総合的に判断して行うものであること。
- 3 無料又は低額老人保健施設利用事業を行おうとする定款認可申請又は定款変更認可申請については、あらかじめ当局に協議されたいこと。